

Q7

標準治療とは何ですか。

A

「標準治療」とは、多くの臨床試験の結果をもとに専門家が集まって検討を行い、専門家の間で最善であるとコンセンサス（合意）の得られている治療法のことをいいます。乳がんの標準治療は一つとは限らず、状況に応じてさまざまな選択肢があります。一人ひとりの患者さんで最適な治療法は、乳がんの進行の度合い、乳がんの性質、患者さんの状態や意向などによって異なります。ご自身にとって最善の治療を受けるためには、まず自分の乳がんについて正しく理解すること、自分の乳がんに対する標準治療が何であるかを知っておくことが重要です。

解説

標準治療とはどのような治療ですか

乳がんの治療には、外科療法（手術など）、薬物療法（ホルモン療法や分子標的治療、抗がん薬など）、放射線療法などがあります。実際に個々の患者さんで治療方針を決める際は、それらの中から適切な治療を組み合わせ決めていきます。乳がんに関して、基礎医学の研究や臨床試験といわれる患者さんが参加する研究が多く行われています。こうした研究の進歩により、乳がんは一人ひとりの患者さんで性質が異なり、最適な治療法もそれぞれ異なるということがわかってきました。そして、専門家が世界中の研究の成果を集めて、有効性と安全性を確認し、現時点で最善の治療として合意したものが「標準治療」です。標準治療は、一つだけとは限らず、複数の治療法が示される場合もあります。

「標準」治療というと「並みの」治療でしかないのではないかと誤解される方もおられるかもしれませんが、標準治療は「現時点で、患者さんに最も効果が期待でき、安全性も確認された、最善の治療」ということをご理解ください。

マスコミなどで「最先端の治療」とされる治療と標準治療ではどちらが良いのですか

標準治療のほうが良い治療といえます。マスコミなどで「最先端の治療」という言葉を目にすることもあると思います。より良い治療を受けたいと思われることは当然のことですが、「最先端の治療」と「最善の治療」は異なります。新しい治療方法の開発には、まずは薬の候補となる物質や仕組みを探ることから始まります。可能性がありそうなもの場合には、細胞やネズミなどの実験動物を使って実験をします。この結果から、人への応用ができそうなことがわかったら、臨床試験によ

て安全性と効果を確認します。最初は、少数の人を対象にスタートをし、だんだんと患者さんの数や調べる内容を増やしてどんな人に効果があるのか、副作用は許容できる範囲のものなのかなどを調べていきます(☞Q8参照)。新聞やメディアなどで宣伝される「最先端の治療」といわれるものの中には、実験段階のもの(例えば、実際の患者さんに投与されたことがないか、ほとんどない)が多々混じっています。本当に有効であるといえるか、安全であるといえるかの評価が定まっていないことがあるので、注意が必要です。薬の開発は長い時間と、たくさんの人の関わりがあって実現するものです。「最先端」という言葉に惑わされず、担当医とよく相談し、治療を決めていきましょう。薬の開発の歴史やお話については、日本製薬工業協会ホームページの「くすりの情報Q&A」に掲載されています。歴史などの読み物だけでなく、服薬の注意事項など、知っておきたい基本的な事項もたくさん掲載されていますので、一度目を通しておくとよいでしょう。

■ 標準治療はどのようにして決まるのですか。また、標準治療とガイドラインの関係を教えてください

乳がんの分野では数多くの臨床試験が全世界で行われており、毎年国内外で開催される学会で多くの研究結果が報告されています。これらの最新情報をもとに専門家が集まって討議し、その時点で最善であるとコンセンサス(合意)の得られた治療法が「標準治療」となります。そして、それらの合意事項をまとめたものが「ガイドライン(治療指針)」です。日本では、日本乳癌学会が医療スタッフ向けの診療ガイドラインを作成しています。薬物療法、外科療法、放射線療法を扱った「治療編」と、疫学・予防、検診・画像診断、病理診断を扱った「疫学・診断編」の2冊が出版されています。「標準治療」は新しい治療法・より良い治療法が確立されるごとにアップデートされるため、ガイドラインも定期的に改訂されています。この『患者さんのための乳がん診療ガイドライン』も、日本乳癌学会の医療スタッフ向けガイドラインの作成に従事した専門家と看護師、薬剤師、患者さんの代表が集まり、最新情報をもとに標準治療をわかりやすく解説するために編集されたものです。

■ 最善の治療を受けるコツは何ですか

患者さんの中には最新治療を自分自身で調べ、納得したうえで治療法を決めたいという人もいます。一方、いろいろと調べてもよくわからないし不安になるだけなので、ある程度担当医に任せて決めてほしいという方もいます。どちらが正しくて、どちらが間違いというわけではありません。大切なことは、最終的に自分で納得したうえで治療法を受けることです。そのためには、担当医とよく話し合い、お互いに納得することがとても大切です。そして、よく話し合うためには、担当医との信頼関係、良好なコミュニケーションとともに、いまの自分に対する標準治療が何であるのかを、ある程度理解しておくことも大切です(☞Q6参照)。